

2月24日(土)菊池源吾(西郷隆盛)を語るシンポジウムin菊池

「維新の三傑」の一人と称される西郷隆盛は、祖先発祥の地が菊池市七城町の西郷地区であり、菊池一族の末裔といわれています。その西郷隆盛は、生涯のうち3年余を奄美大島の龍郷町に“菊池は吾が源”として「菊池源吾」の変名で潜伏し、その間、島の生活や教育に影響を与えています。

このほど、ともに菊池源吾(西郷隆盛)にゆかりの深い菊池市と鹿児島県大島郡龍郷町の有志が語るシンポジウム(同実行委員会主催、龍郷町・菊池市等共催)が開催されました。会場となった七城公民館講堂(定員250人)には450人を超す聴衆が詰めかけ、立錫の余地もない状況で、2階にはモニター中継の部屋も設けられました。

まず、菊池市の社会教育指導員で文学博士の郷土史家・堤克彦さんの基調講演。西郷隆盛が菊池源吾と名乗った時期とその時代的背景について、分かりやすく説明しました。また、西郷が菊池武光の後裔であるという通説と違い、初代則隆の次子「西郷太郎政隆」を出自とする説を述べました。

続いて、市国際交流課嘱託職員の津留今朝寿さんをコーディネーターとして、両市町の関係者7人がパネリストとなり、西郷本人や龍郷時代の愛妻「愛加那」、そしていずれも菊の名を付けた長男・菊次郎、長女・菊草(後に菊子)などについて語り合いました。何故、長男であるにもかかわらず“菊次郎”と名付けたのか? 愛加那は「鹿児島に住む正妻にいずれか生まれるであろう子が「太」や「一」の字を使うべし」として、あえて“菊次郎”と名付けたとのこと。このような愛加那の奥ゆかしさを示すエピソードなども語られました。

最後に、アトラクションとして龍郷町民による島歌や踊りが披露され、今後も両市町が友好を深めることを誓い、閉会しました。



両市町の関係者7人によるパネルディスカッション



両市町の住民や西郷ファンで埋まった場内(七城公民館講堂)

2月25日(日)第17回菊池市民駅伝

菊池市体育協会菊池支部と菊池市の主催による、菊池市民駅伝が開催されました。菊池市営中央グラウンドをスタート・ゴールとし、遊蛇口プール前を折り返すコースで、オープン参加を含めて9チームが出場しました。

開会式では、大会会長の前川支部長のあいさつに続いて福村市長が、「若い人たちは、陸上競技で活躍する郷土の先輩、江里口匡史くんに続くよう頑張ってください」と激励。スターターの藤江体育指導委員協議会長の号砲一発、小学生男子区間である1区ランナーがスタートしました。この大会は、タスキを受けたランナーは必ず中央グラウンドに戻ってきて次のランナーに手渡します。グラウンドに詰めかけた観衆は、眼前で繰り広げられるタスキリレーに盛んな声援を送っていました。

大会審判長の緒方幸利さんは、「この大会は合併前から行われていて、一時期は16チーム参加したこともありました。今年はとうとうケタになりましたが、長く続けるためにもぜひ多くのチームに参加してほしい」と語りました。上位の成績は次のとおりです。

- 優勝 花房チーム(1時間23分45秒)
- 2位 菊之池チーム(1時間28分33秒)
- 3位 迫間・水迫チーム(1時間30分00秒)



元気にスタートする小学生区間の1区ランナー

2月17日(土)交流サロン「ひまわり」落成式

交流サロン「ひまわり」の落成式が、関係者約50人の出席で行われました。これは、高齢者や障害者、子どもたちなど誰もが集える場所として、NPO法人菊池ひまわりの会(崎村弥生理事長)が県の進める地域縁がわづくり推進事業の補助を受け、野間口の同会作業所横に建築を進めてきたものです。

式では、「小さい施設ですが利用者の笑顔が輝くようにがんばりたい」と崎村理事長があいさつ。また、落成を記念してのミニミニコンサートもあり、利用者の歌声が館内に響き渡りました。

この交流サロンには、施設利用者が作ったパウンドケーキやコーヒーを提供する喫茶コーナーや、知育玩具や絵本を備えたおもちゃコーナーなどがあり、今後の地域福祉の拠点としての発展が期待されます。

利用についての問い合わせは
菊池ひまわりの会 ☎(25)5141まで。

崎村理事長(中央)



2月17日(土)・18日(日)「泗水ママ」が県会長杯で優勝

第26回会長杯家庭婦人バレーボール大会が山鹿総合体育館でありました。クラス別のトーナメント戦で試合があり、Bブロックに出場した「泗水ママ」チーム(清田いづみ監督)が見事、優勝しました。

同チームには20年以上の歴史があり、先輩たちからの伝統を引き継ぎ、チームワークで日々練習に励んできました。清田監督は「メンバー全員で勝ち取った優勝だと思います。これからも頑張っていきたいです」と話されました。



「泗水ママ」チームのメンバー

2月18日(日)UVビーズで環境体験学習

菊池市文化会館で開催された「菊池市まちづくり生涯学習フェスティバル」で、環境体験学習「UVビーズストラップ」づくりがありました。

当日は、熊本県地球温暖化防止活動推進員の隈部さん、泉さん、藤江さん、山下さんのほか菊池郡市の推進員も協力して行われました。子どもたちは「環境クイズ」に挑戦しオゾン層の破壊や有害紫外線について学習した後、UVビーズと色鮮やかなビーズを組合わせたストラップづくりに熱中していました。

UVビーズとは、紫外線に反応して色が変化するビーズで、紫外線の強さによりUVビーズの色も変化します。色の強さで目に見えない紫外線の強さが分かるので、体に悪影響のある紫外線から身を守る目安にもなります。

紫外線を吸収する働きをもつオゾン層が破壊されると、有害な紫外線が増加し人体に深刻な影響を与えます。

オゾン層の破壊を防止するため、皆さんも自分の出来ることから取り組みましょう!

UVビーズを使ってストラップづくり



2月21日(水)ヤマメの放流

菊池川・迫間川・上内田川・岩野川にヤマメの成魚約2,500匹(150kg)が放流されました。川に親しんでもらおうと、菊池川漁協(三原真祐組合長)と菊池市とが協力して毎年行っているものです。

同漁協職員、市役所職員、関係者など約10人が2班に分かれて、4つの川の10カ所に放流しました。放されたヤマメは、清流の中に元気よく泳いでいきました。

放流を終えた同漁協職員は「ヤマメ釣りをする皆さんに喜んでもらえれば」と話していました。

また、3月1日の解禁日には、早朝から思い思いの場所でヤマメ釣りを楽しむ釣り人たちの姿が見られました。



菊池川にヤマメの成魚を放流する関係者